

「人間中心の工業デザインを知ろう」

日時：令和元年8月6日（火）13：15～16：00 場所：千葉大学工学部2号棟102教室  
講師：千葉大学大学院工学研究院 教授 下村 義弘 先生



和太鼓で鍛えられた先生の筋肉に驚き。筋肉の部位の説明がとても分かりやすかったです。

なんと！本物の人骨だそうです！

手で持つことを科学的に考える



手を使うときに使う筋肉の確認。どのような場面でどの筋肉がはたらくのか、一つ一つ自分の筋肉を触りながら確認しました。



受講生の中に、とても立派な筋肉の持ち主が！部活は足を使う部活だそうで、本人は「水泳かな？」



筋電位測定

自分の最大の握力を測定しました。その後、円錐形のコップを普通に持ったときと、上下逆さまに持ったときで、筋肉をどのくらい使用しているか測りました。



日常生活で少し不便だなと感じている物を持参し、どのくらい筋肉を使用しているか測定しました。



どの筋肉を測定したらよいか、先生にアドバイスをいただきました。また、負荷を減らすアイデアを考えました。

【受講生の感想】

- ・今日はいつも使っているものがどのような考えでデザインされているかがわかった。今までもっていたイメージより、科学的で合理的なものであるということがわかった。
- ・デザインはおしゃれなものやかわいい、かっこいいものことだと思っていたけれど、人間中心の使いやすさなどのデザインや、数値化ができることを知って驚いた。
- ・いつもは意識してなくても、手を動かすにはいろいろな筋肉が使われていることが、実際に自分の筋肉でたしかめることができよかった。
- ・普段使いにくいと思っていたものが自分の最大能力の58%の筋力を使っていたと知り、とても驚きました。各会社も今日と同じように筋電をはかり、リデザインをすると知り、すごいと思いました。
- ・デザインとは見た目だけではなく、使いやすいかという観点もふくまれていることがわかった。すべての人にとって使いやすいデザインを考えるのはとても難しいことだと思った。
- ・デザインは負担をかけすぎると良くないし、負担がないと健康にも影響してしまうという話を聞いて、そのバランスが難しいと思いました。